

公表

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果

事業所名 リールズメイト東向島

公表日 令和8(2026)年3月2日

利用児童数

33名

回収数

23名

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	13	6	0	0	その時利用している子のサイズ感によるかとあります。	置き場所等を工夫し、安全で快適な支援環境確保に努める。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	19	0	0	1		
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	17	0	0	3		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	18	0	0	3		
適切な 支援の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	16	2	1	3	専門性は感じませんが、子供が楽しく過ごせるよう考えていただいていると感じます。	丁寧な対応に努め、各対応について改善をはかる。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	17	2	0	1		
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	21	1	0	0		
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	18	0	0	2		
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	19	0	0	2		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	21	0	0	0		
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	9	2	1	8		
保護者 への 説明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	19	2	0	0		
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	16	3	0	1		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	8	2	5	5		
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	20	0	0	0		
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	14	4	1	2		
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	20	0	1	1		
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	6	1	6	7	子どもは多種多様な活動を日々楽しみにしています。 親としてはスタッフの方々の雰囲気は良く安心して預けさせていただいています。	モニタリングの機会等を活用し保護者ニーズの把握に努めつつ、ご家族参加イベントなどきょうだい支援につながるサービス提供に努めていく。

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	9	3	0	7	色々な事件等あるので、送迎は女子の場合、同性であっていただきたいです。	迅速かつ丁寧な連絡・報告に努め、安心してご利用頂ける支援体制を確保していく。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	19	1	0	0		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	17	1	0	2	定期的でない。ムラがある	家族用ページの入り方について丁寧にお伝えし、周知・徹底に努めていく。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	18	0	1	1		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	11	1	1	7		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	12	1	1	6		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	14	1	0	5		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	16	0	0	4		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	20	1	0	0		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	21	0	0	0		
	29	事業所の支援に満足していますか。	18	2	0	0	子どもが楽しく通っているので満足しています	引き続き、通所を楽しみができる支援の充実に努める。

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。		○	毎月活動内容が同じものではなく、アレンジのある内容を職員間で決めている。	時々代り映えしない。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。		○	日々、個別活動と集団活動を必ず取り組んでいる。	時々レベルに合っていない。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。		○	前日の振り返り、当日の共有、次の日の共有を行う。	時々行われない。引継ぎだけのものになっている。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。		○	支援開始前に取り組む。翌日に活動共有と同時に振り返りしている。	行っていない。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。		○	連絡帳にて、日々記録をしている。	記録を振り返る機会がない。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。		○	児発管から新しい計画書作成にあたり、スタッフ間で話し合いを行っている。	行っていない。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。		○		
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。		○		
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。		○	児発管が相談支援事業所と定期的なモニタリング共有を行っている。	直接的な会議は行っていない。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。		○	連携できるよう、体制を整えられるよう努めている。	整えられていない。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。		○	定期的に連絡調整を行っている。	怠っているときがある。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。		○	保護者の方から情報共有をしていただく。	行っていない。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		○	ご連絡等があった際には提示することが可能。	事業所側からは行っていない。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		○	連携できるよう、体制を整えられるよう努めている。	設けていない。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		○	公園での地域のこどもと交流あり。	計画的に機会は設けていない。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		○	代表者が参加している。	代表者以外は参加していない。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。		○		
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○	ご家族・学校等と協力した支援を行えるよう、お話を都度行っている。	研修の機会は設けていない。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。		○	契約の際に取り組んでいる。	契約者以外は理解ができていない。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。		○		
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。		○		

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		○	年に一度交流できる機会を設けている。	保護者会を開催していない。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。		○	定期的にブログなどをアップしている。	ホームページを活用する機会が減少している。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	文化祭等で以前は地域の方を招待することがあった。	実際に来ていただけることがなくなった。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。		○	訓練を想定した話し合いを職員間で実施。	回覧のみ。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。		○	訓練を想定した話し合いを職員間で実施。	回覧のみ。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		○	保護者の方からご連絡をいただき、職員間で共有。	医師の指示書に基づいているかは不明。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○			
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○				

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	リールスメイト東向島		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 1日		～ 2026年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	33	(回答者数) 23
○従業者評価実施期間	2025年 12月 1日		～ 2026年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 2日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されている。	Cトレを活用し、年間研修計画に基づき、各スタッフの勤務状況に合わせつつ、確実に実施し、受講状況や実績が把握できるようにしている。	スタッフのキャリア進行に応じて児発管研修や強度行動障害支援者養成研修等を順次受講できるようにしていく。
2	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っている。	一日のスケジュールを絵カードで記し、どの活動が楽しかったかを自己選択できるようにしている。また、児童が困っている際には、スタッフが二択にし、自己決定できるよう促すことをしている。	支援の際、児童一人一人に合った自己選択や自己決定の仕方を絵カードやサインなどで幅を広げていく。
3	日頃から児童のご様子・状況を保護者と伝え合い、発達の状況や課題について共通理解を持てるように努めている。	連絡帳を活用し、ご利用の都度、保護者との意思疎通の機会を設けており、お会いする機会に限られる保護者には、児発管等が意識的に電話等でコミュニケーションを取るよう心がけている。	支援経過を記録に残せるよう、経過表の帳票様式を整備しており、児発管が中心となってモニタリング・経過アセスメント面談の際に、日々のコミュニケーションの積み上げを活用していく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	課題：職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげる。	スタッフ会議内での意見の出どころに偏りが出ている。	会議が行われる前、意見が少ないスタッフに事前に意見アンケートをとる。
2	課題：活動プログラムが固定化しないよう工夫する。	プログラム固定化（マンネリ防止）防止に努めているものの、チャレンジ精神が不足していることもあり、新たなプログラムの試行が滞りがちである。	法人では児発管会議を年2回実施しており、他事業所での好事例情報やアドバイスを取り入れ、月に1回は新プログラムの試行を進める。
3	課題：支援開始前には職員間で必ず打ち合わせを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	日によって行われないといったことが起きている。	日々の打ち合わせの時間を決め、必ず実行する。

事業所名

リールスメイト東向島

支援プログラム（放課後等デイサービス）

作成日

2024 年

9 月

1 日

法人（事業所）理念		子どもの人権や主体性を尊重し、子どもの最善の利益を図るため、保護者や地域社会と力を合わせて子どもを主体とした福祉の推進に積極的に取り組みます。											
支援方針		多様な活動・体験機会の提供を通じて、現在抱える子どもの困り事や生き辛さを改善し、子ども達が自分らしく生き抜く力を育み支える。											
営業時間		平日 土・祝・長期休暇	13 (10)	時	0	分から	18 (16)	時	0	分まで	送迎実施の有無	<input checked="" type="checkbox"/> あり	<input type="checkbox"/> なし
支 援 内 容													
本人支援	健康・生活	事業所スタッフにより来所時の健康チェック、来所時や飲食前、トイレ使用後等の手洗い等を通じ、健康を保持しつつ活発な活動参加ができるよう支援。 ご利用児童の特性に合わせ、構造化を意識した部屋のレイアウト・掲示・支援により、安心・安定して通所・活動できるよう支援。 保護者との密接な連絡調整と連携により、定期的なご利用を促進し、児童本人の生活リズムの形成・安定を図る。											
	運動・感覚	ストレッチ・体操・サーキット活動等の提供により、姿勢および運動や動作の基本的技能を維持・向上を促進。 音楽に合わせて身体を動かす活動等の提供により、児童が保有する聴覚・視覚・触覚など感覚を刺激し、十分に活用することを促進。 (児童ひとりひとりの身体の状態に合わせ必要な場合)活動時間中に適切な姿勢保持装置や車いすを活用することで、姿勢の保持や移手段の確保を図る。											
	認知・行動	支援スタッフが児童ひとりひとりの認知の特性を理解・把握するよう努め、それらを踏まえて児童が自分に入ってくる情報を適切に処理できるよう支援。 粘土細工などの創作活動の提供により、児童が視覚・触覚・嗅覚などを通じて物の形や色・重さが変化していくことを体感し、認知機能の発達を促進。 外出（散歩）活動の提供により、児童が季節の移り変わりによる様々な変化を自ら体感することで、過去の情報と照合しつつ環境の状況や変化を把握・理解できるよう支援。											
	言語 コミュニケーション	はじまり（終わり）の会等の機会を通じ、コミュニケーション（言語・非言語のやり取り）により、相手の意図を理解することや自分の考えを伝えられるよう支援。 活動中の意図的な声掛け等により、ご利用児童ひとりひとりの発達状況や興味・関心に合わせ、言語・表情や身振りなどを用いて意思を伝えることを促進できるよう支援。 散歩活動中等の声掛けにより、個々に合わせた環境設定により相手と同じものに注意を向け、徐々にその行動や意図を理解していくことを促進。											
	人間関係 社会性	活動中や活動前後の事業所の支援スタッフとの密なやり取りにより、多様な他者との関わりの機会および環境を提供することで人間関係形成の促進。 感覚機能や運動機能を刺激する集団活動（例：ダンス活動等）の提供により、他の児童と活動に参加することの楽しみを感じることで、社会性を促進。 ご利用児童ひとりひとりの関心や理解度に合わせつつ、ルールのあるゲーム活動の提供により、集団に参加する楽しみや手順を徐々に理解できるよう支援。											
家族支援		ご利用児童を支える保護者・家族のレスパイト、就労確保の預りニーズに対応し、必要に応じて延長支援を実施。児童の発達状況を相互に理解し合えるよう定期的に情報交換を実施。						移行支援		学童保育を併用している場合の連絡調整を行い、必要に応じて移行支援。 希望の進路先を見据えた本人・保護者等との相談援助を実施。			
地域支援・地域連携		ご利用児童がスムーズな生活を送れるよう、通学先の学校の先生、併用している他の支援事業所担当者との連絡調整や連携の実施。						職員の質の向上		年間研修計画に基づき、計画的かつ定期的に全職員および職層別の研修を実施する。			
主な行事等		春探し（4月）、工作week（5月・6月・11月・2月）、水遊び（7月・8月）、夏祭り（9月）、ハロウィンweek（10月）、クリスマス会（12月）、初詣（1月）、外出（毎月）											